西南学院大学 🔷



図書館報

No.

149
2000.10













「これは、在学中に読んでおきたい本」

英米文学関係で手に取り、読んで欲しいもの 文学部英文学科助教授 髙橋 和子

卒業までに読んでおきたい資料

文学部外国語学科英語専攻教授 宮原 哲 2

『フランスにはなぜ恋愛スキャンダルがないのか?』 (棚沢 直子/草野いづみ)

文学部外国語学科フランス語専攻教授 太田 和男 3

「総合的な学習の時間」のあり様を探ろう

文学部児童教育学科教授 生野 金三 3

井上ひさし・山本護久「ひょっこりひょうたん島」

文学部国際文化学科教授 岩尾 龍太郎 4

個性を作る 商学部助教授 小川 浩昭

「リサイクル」で世の中うまくいくか?

-最も身近な環境問題=「廃棄物問題」を考えよう-

経済学部講師 小出 秀雄 5

4

8

法学部の学生さんに勧める本、雑誌

法学部助教授 奥 博司 6

?よくある質問?

Information

◆◆◆◆◆「これは、在学中に読んでおきたい本」◆◆◆◆◆



英米文学関係で手に取り、読んで欲しいもの

文学部英文学科助教授 髙 橋 和 子

授業を受けると、「○○の本は、必ず参照しなさい」とか、「××は、基礎文献だ」とか、さまざまなアドバイスを受けると思います。このような文献名をメモすることは大切ですが、名前を覚えるよりも、直接手に取りましょう。本や雑誌には、人間と同じように、顔(表紙)があり、重みがあり、においがあるので、まずは「会って」みることが大切です。

図書館の4階には、「英米文学選定図書」のコーナーがあります。ここには、在学中に読んで欲しい英米文学の作品の原書 (英語) とその和訳が、置かれています。どれから読んでもかまわないと思いますが、授業で(またはどこかで)聞いたことのある作家一Shakespeareや、Dickens、Hemingwayはどうですか一から始めたら良いでしょう。すぐ隣には、辞書がいっぱい置かれています。OEDは、一度は引いて欲しい英英辞典の大御所的存在です。ちなみにこの英語は、The Oxford English Dictionary の略語で、この3文字を聞いた時には、何を意味するか即座にわからないと困るかもしれません。

4階には、英米文学の和書・洋書がたくさんあります。出版年は少し古いものの、和書で入門的かつわかりやすいのは、研究社の『20世紀英米文学案内』です。このシリーズには、さまざまな作家たち(Joyce、Woolf、Faulkner などなど)のおもな経歴と、代表作の内容がわかりやすく書かれています。洋書で有名作品を読もうと思えば、Everyman's Library のシリーズがあります。Mark Twain のあの Tom Sawyer など、各作家の代表作がハードカバーで読むことができます。英語で書かれた入門的研究書としては、TEASの略語で知られる、Twayne's English Authors Series が良いでしょう。今も続刊が出ているこのシリーズは、古い作家から新しい作家まで、幅広く扱い、彼らのおもな経歴と、代表作の批評をコンパクトに読むことができます。

図書館 2 階には、ご存知、「選定図書」のコーナーがあります。私自身が、今年の選定図書に選んだ中でお勧めは、『たのしく読めるイギリス文学』(ミネルヴァ書房)と、『英国文壇史』(研究社)です。前者では、イギリス文学の有名作品のあらすじを、まとめて読むことができますし、後者では英国作家の交友関係を楽しみながら知ることができます。 2 階には、雑誌コーナーもありますね。英米文学関係で有名なのは、なんと言っても『英語青年』です。この古式ゆかしきタイトルの雑誌では、最新の英米文学および英語学関係の研究状況を知ることができます。

以上、簡単に図書館ツアーをしてみましたが、とにかく本や雑誌にまずふれてみて、これらが何色の表紙なのか(TEASは渋めの赤い表紙です)、どんなにおいがするか、どのぐらい重いのか(今までお話した中で一番重いのはOEDです)確かめてみてください。手にして、初めてこれらの文献が、皆さんの学びの役に立つようになるでしょう。



卒業までに読んで おきたい資料

文学部外国語学科英語専攻教授 宮原 哲

外国語学習のための大学施設として、最近マルチメディアの効力が急速に認識、評価されるようになった。オーディオテープはもちろん、ビデオ、レーザーディスク、CD、それにパソコンを取り入れた学習はもう珍しくない。しかし、紙に活字が印刷された書籍が備えられた図書館は、手軽に利用でき、長期的に外国語学習に果たしてくれる役割という点では、依然として教材の宝庫としての王座を譲ることがない。「国際人としてのコミュニケーション能力」を習得するために、この数十年欠かすことのできないとされている資料をいくつかのグループに分けて紹介したい。

まず英語というより、言語と人間との深い関わりについて分かりやすく解説している本の代表として、鈴木孝夫「ことばと文化」(岩波書店、1970)、外山滋比古「日本語の論理」(中公叢書、1973)、また、日本人とアメリカ人のことばに対する考え方の違いを実証的研究を通して明らかにした Barnlund, D., Public and Private Self in Japan and the United States (Simul, 1975) などを挙げることができる。また一般意味論の基本的理解のためには、ハヤカワ、S.I. (大久保忠利訳)「思考と行動における言語」(岩波書店、1985)も忘れることができない。

次に、数ある「日本人論」のジャンルの中で、日本人のコミュニケーションにおける思考、行動様式を科学的見地からとらえ、その後の多くの研究の礎となった本としては土居健郎「甘えの行動」(弘文堂、1971)の右に出るものはない。木村敏「人と人との間」(弘文堂、1972)、中根千枝「タテ社会の人間関係」(講談社、1967)、濱口恵俊「間人主義の社会日本」(東洋経済新聞社、1982)などが与えてくれる示唆も多い。

最後に、最近の日本人、特に若者の人間関係の特徴について鋭い切り口で解説してくれるのが小此木啓吾「モラトリアム人間の時代」(中公叢書、1978)、千石保「『まじめ』の崩壊」(サイマル、1991)などだろう。

当然挙げればキリがないのだが、以上、英語の細かいことについて多くのことを知ろうとする前に、人間がことばを使うことの意義、そして日本文化で生まれ育った私たちの社会行動の特徴を考えてもらう一助となり得る代表的な資料を紹介した。



『フランスにはなぜ恋愛 スキャンダルがないのか?』

(棚沢直子/草野いづみ)

文学部外国語学科フランス語専攻教授 太田 和男

世代的に学生に最も近い同僚の和田先生に、何か面 白い本はありませんかと尋ねたら、上のような表題の 本を紹介された。

ジャーナリスティックな表題は、編集部の商業主義によるものだろうが、内容はかなりアカデミックである。例えば、クリントン大統領のいわゆる「不倫疑惑」 事件も取上げられているが、比較文化論的な立場から 客観的に解説されている。

日本の週刊誌やテレビ・ジャーナリズムは芸能人の 私生活を取材して「発覚」という言葉を使って騒ぎ立 てる。元来、この言葉は犯罪等の悪事に使われる表現 である。日本のマスコミは、なぜ個人の感情生活を犯 罪扱いするのだろうか。

これに反して、フランス人の態度は(少くともパリでは)成熟した大人のものである。彼らが「日本人」(ジャポネ)に対して言う悪口に「ジャポニエ」というのがある。この意味は、niais というフランス語を辞書で調べれば分かるだろう。

5年前単行本として出版されたこの本は、当時注目を浴びて書評でも取上げられたが、昨年11月「角川ソフィア文庫」の一冊として再刊されて入手し易くなった。本書の内容は、浅野素女『フランス家庭事情』(岩波新書)の姉妹編とも言えるもので、内容的に重なる部分もある。この本も一緒に読めば理解しやすくなるだろう(ついでに言えば、浅野さんの著書には『パリ二十区の素顔』という集英社新書もある)。

しかし、図書館の本というものは、何となく親しみにくいのも事実である。文庫や新書は値段が安いので自分でも買える。それに、この本の場合文庫化されるに当って「大幅な加筆と改稿」がされたというから、文庫版を買った方がいいとも言える。

これに対して、図書館で読む方がいい本もある。松本侑子訳『赤毛のアン』(集英社)は、そういう種類の本である。7年前に出版された本だが、まだ文庫化されていないようだ。こういう本は、図書館で読むしかない。終りまで読み通すことが難しいなら、巻末にある16ページにわたる「訳者あとがき」だけでも読めばいい。あなたの抱く著者L. モンゴメリーのイメージは全く別のものとなり、高校生から本当の大学生になったような気がしてくるだろう。



「総合的な学習の時間」の あり様を探ろう

文学部児童教育学科教授 生野金三

平成10年に「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」が全面改訂告示され、そして平成11年に「保育所保育指針」「高等学校学習指導要領」が全面改訂告示された。その趣旨を受けて「幼稚園」と「保育園」では、既に実践(今年の4月から実施)が行われている。小学校と中学校では平成14年度からの実施に向けて現在移行措置の段階である。

学習指導要領は、「教育課程の基準の改善のねらい」を受けて改訂されたものであるが、その基準のねらいでは児童生徒に「生きる力」を育むことを目的としている。このように児童生徒に「生きる力」を基本とするこれからの学校教育の実践を展望するとき、教員に強く要請されるのが専門的な知識・技術や幅広い教養を基盤とする実践的な指導力である。

自ら学び自ら考える力等の「生きる力」を育むことを目指す今回の教育課程の基準の改善の趣旨を実現する極めて重要な役割を担うものが「総合的な学習の時間」(今回創設)である。

児童教育学科の学生は、この期に「総合的な学習」 に関する図書を是非読んで欲しい。「総合的な学習」 に関する図書は、これまで数多く出版されているが、 そのなかで『総合学習のためのポートフォリオ評価』 (加藤幸次他著、黎明書房)、『総合的な学習のカリキ ュラムをつくる』(浅沼茂編、教育開発研究所)の図 書を勧めたい。前者の『総合学習のためのポートフォ リオ評価』は総合学習の本質について触れると同時に、 実践上の指針を提示している。就中、これまでの教育 や学習がきちんと組み込んでいなかった評価に視点を 当てた図書である。「総合的な学習」においては、評 価がとても難しいとされ、そのあり様が今後の課題と なっている。本書は、児童生徒の学びの軌跡、あるい は学習の活動にしたがって整理した内容等について、 児童生徒と教師がそれぞれ評価し、そしてそれを今後 の学習へ生かそうとする内容が掲げられている。一方、 後者の『総合的な学習のカリキュラムをつくる』は、 総合的な学習の教育課程を編む際の基本事項、そして 領域的発想による「総合的な学習」のカリキュラムづ くり、更には「総合的な学習」の実践例等から触れら れている。これらは、いずれも「総合的な学習」のあ り様を探るに当たって一石を投じる図書である。

以上が児童教育学科の学生に勧めたい図書の紹介で ある。





井上ひさし・山元護久 「ひょっこりひょうたん島」

文学部国際文化学科教授 岩尾龍太郎

高度成長は大量の転校生を、それこそ「転校生」という概念そのものを生み出した。(現在「転校生」という概念は「単身赴任」に代わっている)。父の転勤にともない、小学校を3つ、高校を2つ経験するはめになった少年時代の私を魅了したのが、この軽快な人形劇ミュージカル(1964-9放映)だった。島が流れて勝手にひょっこりひょうたんする。その設定が解放感を与えた。ひょうたん島の人々の来歴は不明である。彼らは互いの来歴を問わない。どこから来て、どこへ向うかは、問題ではない。まずは動く島に飛び乗り、新たな関係を取り結ぶことだけが肝心なのだ。

かつての島民は火山の噴火で逃げ出したらしい。そ の島へサンデー先生と5人の子供たち(博士、ダンプ、 チャッピ、テケ、プリン)がハイキングにやってくる。 彼らは、何とか市立、何とか小学校の先生と生徒では ない。移動中の難民のなかにできた学習グループとい った感じでも読める。そこへ三流海賊の成れの果て泥 棒トラひげが、盗品の山を載せた筏で漂着。「太平洋 の水で産湯をつかい、大西洋を遊び場に」という彼の 名は「フーテンの寅」に由来する。さらに飛行護送中 のギャング、マシンガン・ダンディが、空からメアリ ・ポピンズよろしく傘を広げて不時着。盗品のテレビ のなかから、出鱈目を追求された政治家ドンガバチョ が亡命者のように出てくる。同じく盗品の金庫のなか から、酔っ払ってドアと間違えて入り込んでいた医者 ムマモメムが出てくる。ライオン王国からは「王様な んて退屈・窮屈」と歌いサーカスに入ろうとする国王 ライオンが島民に加わる。さらにキッド船長の宝(キ ッド坊やという悪ガキであることがのちに判明)を探 しに4人の海賊が「夢の海賊船ひかり号」でやってく る。要するにハズレ者ばかりである。

島に漂着した移動者が物語をつくりはじめるのだが、その島自体が「雲をスイスイ、スイスイ追い抜いて、スーイ、スーイ」と動いている。植木等「スーダラ節」のノリである。ひょうたん島はどこへ行くのか分からないが、陸にぶつかり、そのつど荒唐無稽な物語と新たな社会関係が生まれていた。この移動と交通の感覚は、今の私の好い加減な真面目さを決定している。文庫版シナリオを読むと元気が出る。



個性を作る

商学部助教授 小川浩昭

いうまでもなく、読書では良書の選択が重要である。そのために、商学関係の各分野の文献をあげていくというのが、オーソドックスな方法の一つであろう。しかし、本の選択の基本は各分野の必読書を読むように心がけることとし、具体的な書物については、各専門の先生より紹介される必読書を読むようにすることとして、ここでは勉強に対する姿勢といったものも考えながら、在学中に読んでほしいと思う本を何冊か紹介したい。

学生時代には、一つの個性を持った人格として社会で生活していくために、個性を作るという面があろう。個性を持つのは人間だけでなく、書物もそれぞれ個性を持っており、読書には著者の生きた時代や生き方を考えながらそれらと交わり、個性を作るという面がある。そのためには、高校までの勉強が概念、公式等を正しいものとして何ら疑いを持たずにひたすら吸収し、暗記して「習う」ということであったのに対して、大学の勉強は既知の概念、公式にさえ疑いを持ち、粘り強く真理を追求するために「学ぶ」ことであるということを認識しておく必要がある。すなわち、学ぶことの意味を意識しておく必要がある。すなわち、学ぶことの意味を意識して、読書の仕方といったものを考える必要がある。この点の手引書として、内田義彦『読書と社会科学』(岩波新書)、清水幾太郎『本はどう読むか』(講談社現代新書)をあげておく。

次に、「たっぷり時間のある学生時代、是非大きなものを読んでほしい」ということで2点紹介する。大きなものとしては、古典と全集・著作集を薦めたい。古典には、汲めども尽きぬ豊さがあり、それゆえ古典として生き長らえているのである。古典としては、アダム・スミス『国富論』(中公文庫等)をお薦めする。全集・著作集を読むことの意義は、勉強の目的の一つが著者の思想体系を理解し、社会認識の方法として生かしていくことにあり、そのために同じ著者の書いたものをまとめて読むのが有効であるという点にある。全集・著作集とまではいかなくとも、同じ著者の本を数冊まとめて読むことをお薦めする。ここでは、『都留重人著作集』(講談社)を紹介しておく。大きな本を読むのは骨の折れることであるが、意地で読み通してほしい。そのことが、大きな自信につながるはずである。

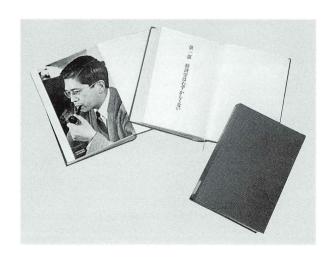
ところで、読書・学ぶという行為には、エネルギー が必要である。そのエネルギーとは、本来自己の内部

Library

から発露される欲求=問題意識といえる。したがって、色々なことを感じとる暖かい心がなければならず、勉強には心(warm heart)と頭(cool head)の相互関連が重要である。自分を惹きつけたテーマについてさらに問題意識を発展させ、大いに学んでほしい。私自身が大学2年生のときに読み、その後大いに勉強するようになったきっかけの本を紹介しておこう。現在でも、社会科学の必読の書であると思う。J.K.ガルブレイス『ゆたかな社会』(岩波書店)である。

日頃から問題意識を養い、常識をつけるために(ただし、常識に迎合する必要はない…しかし、常識がなければ常識を批判しようにも批判できない)、新聞には毎日目を通してほしい。『日本経済新聞』を推薦するが、どの新聞をどう読むかは知的センスの一つと心得てほしい。新聞のわからない用語を調べることを通じて、専門用語・時事用語を身につけていくというのは、効果的な勉強方法の一つであることから、『現代用語の基礎知識』、『imidas』、『知恵蔵』のいずれかは常備薬のように備えておく必要があろう。また、『週刊東洋経済』、『週刊エコノミスト』などの週刊誌や雑誌等も、目次をチェックして興味のある記事・論文は目を通す癖をつけてほしい。

入手困難な本や費用を考えると、必要な本・資料等を全て自前でそろえるのは不可能であろう。そのための図書館である。勉強には、自分のスタイル、生活の中でのリズムがあるはずだ。そうしたスタイル、リズムに効果的に図書館を位置付け、書物の個性に触れながら、自分を磨き、個性作りに励んでほしい。





「リサイクル」で世の中うまくいくか? -最も身近な環境問題= 「廃棄物問題」を考えよう-

経済学部講師 小出秀雄

私の専門は、環境経済学という分野です。特に、経済活動から絶えず排出される「廃棄物」をリサイクルすること(あるいはリサイクルしないこと)にどのような経済的意味があるのか、また、市場経済の中で効率的にリサイクルするにはどのような対策が必要なのか、といったことを研究しています。

2000年6月、「循環型社会形成推進基本法」が通常国会で成立しました。それと前後して、食品、建設資材など個別の対象物に関するリサイクル法も成立し、容器包装および家電製品とともに、わが国は「循環型社会」の実現に向けて、リサイクルをより具体的な形で推進しようとしています。しかし、「なぜリサイクルしなければならないか」という肝心の出発点が、意外に理解されていないようです。リサイクルや廃棄物処理をめぐる問題は、今日も全国各地で、さまざまな形で噴出しています。福岡県も例外ではなく、いくつもの悩ましい課題を抱えています。私も含めて、学生の皆さんは、将来を担う立場として、この最も身近な環境問題である「廃棄物問題」についてもっとよく知り、考える必要があると思います。

そこで、廃棄物問題の現状をわかりやすく解説しつつも、問題の核心を鋭くとらえた名著として、寄本勝美著『ごみとリサイクル』(1990年、岩波新書)、高杉晋吾著『産業廃棄物』(1991年、岩波新書)をお薦めします。ページをめくるたびに、「これはヒドイや」「これってなんか変じゃないか?」「こうすればもっとよくなるのに」といった感嘆や疑問が出てくることでしょう。10年ほど前の文献ですが、問題の本質は今日もほとんど変わっていません。むしろ、悪化しているというべきでしょうか。

さて、「なぜリサイクルすることが必要なのか」を 学んだら、次に考えてほしいのは、「なぜリサイクル が自然に進まないか」です。リサイクルはれっきとし た経済活動です。タダではありません。廃棄処分する ほうが安ければ、リサイクルはされません。また逆に、 最近まで雑誌古紙の市場では、回収される量があまり にも多いために、お金を払わないと受け取ってもらえ ないような「奇妙な」状況が続いていました。

ここで、経済学がおおいに理解を助けてくれます。 細田衛士著『グッズとバッズの経済学』(1999年、東 洋経済新報社)は、リサイクルおよび廃棄物処理の場 面で見られる奇妙な問題の数々を、経済学を使って明



解に斬ってくれます。経済学とはいえ数式はほとんど 出てきませんし、文章は非常にわかりやすいので、経 済学部生でなくても十分理解できると思います。

資源のリサイクルを推進するという昨今の動きは、 実に結構なことだと思います。しかし、次のような話 を聞いた上で、この文章のタイトルの問いに、実直に 「はい」と答えられますか?答えられないなら、また 一緒に考え直しましょう。

(1)「リサイクル量の伸びよりも新品の生産量の伸びが大きいとき、そのリサイクルには意味があるのか?」《ペットボトルはその差が開くばかり》、(2)「ごみを固めて作った燃料はダイオキシンの排出が少ないリサイクル資源だけど、買い取ってくれる業者がなかなか見当たらないとか」《結局「ごみ」として埋められる》、(3)「24時間運転でダイオキシン対策万全のごみ焼却炉は、ごみの量が少ないとやっていけないらしい」《焼却施設の高性能化はリサイクルの促進に矛盾する?》





法学部の学生さんに 勧める本、雑誌

法学部助教授 奥 博司

法学・政治学は、権力に関する学問である。そこで、法学部に学ぶ者は、権力についての理解を深めることが求められる。そのための優れた書物は多数あろうが、私は、最近目にした3つの小説をお勧めしたい。春江一也『プラハの春』、その続編ともいうべき『ベルリンの秋』、及び、趙延來『太白山脈』である(いずれも、発売は集英社)。ここで書かれていることの中に、(どの程度)誇張があるのかないのか、私にはわからない。しかし、少なくとも、幾ばくかの真実を伝えていると思われる。加えて、真の意味での国際人になるためにも、読んでおかれることをお勧めする。ちなみに、前二者は、私の在外研究中の思い出とも重なり、個人的にも興味深く読んだ。後者は、朴椿浩先生から、韓国の近現代史の理解を深めるためのものとしてご紹介いただき、一気に読み切った。

これらの書物を一読されて、権力に対する嫌悪感を もよおされるかもしれない。あるいは、社会秩序の維 持の重要性を、(必要以上に?)痛感されるかもしれ ない。権力の行使が、どの程度、公共性の名のもとに 許されるのか。そもそも、権力は必要なのか。それは、 法哲学、政治哲学の重要なテーマである。ここでは、 井上達夫教授のふたつの著書『共生の作法』『他者へ の自由』(いずれも創文社)を挙げておきたい。

我々の社会、特に、権力行使は、法によって規律されている(ことになっている)。そこで、法のもつ技術性をも身につけておくことが、法学を学ぶ者に求められる。それがなければ、いかなる議論も、画餅に帰する。このような能力は、日々の講義、演習の受講の中で、身につけていくしかない。同時に、学生向け雑誌に掲載されている論稿は、有益であろう。その種のものとして、「法学セミナー」(日本評論社)、「法学教室」(有斐閣)がある。講義の空き時間に図書館に立ち寄り、この種の雑誌の論稿(少なくとも、目次)を一読する習慣をつけておかれるとよい。

他方、"わかりやすいもの"しか読まなければ、知力を鍛えることはできない。一流の知性が、渾身の力をこめて著したものに挑戦することも、必要である。そのようなものは、それぞれの分野に、多数あろう。私の直接の専門に関するものとして、ひとつ、高橋宏志『重点講義民事訴訟法』(有斐閣)を紹介する。

最後に、細かな法技術の勉強に疲れ、自分が何をやっているのかわからなくなった学生さんには、平井宜雄『法政策学』(有斐閣)をお勧めする。



受付案内・貸出・返却係は、学生諸君が図書館利用を円滑に、さらに多くの情報と出会えるようみずからの 研鑽に励みながら、サービスを提供しています。このようななかで、皆さんから質問の多いものを整理して、 参考となるようお知らせすることにしました。

「貸出中」のときは、利用できないのですか?

「貸出中」のものですから、その帯出期間中は利用できませんが、返却されると、ただちに利用できる [予約] という方法があります。

返却されるまで待機することになりますが、「予約」 の希望を受けたところから、図書館より帯出者へ連絡 をいれて、無理のない調整をいたします。

このことで、貸出中の図書も利用が可能になることがありますので、「予約」の手続きを勧めます。

「予約」の方法は、OPAC の所在一覧をプリントして、空白部分に「在学番号」、「氏名」、「学生証のバーコードの数字」、「連絡方法(電話やメールアドレス)」を記載して受付に依頼します。

また、火急を要する利用希望のとき、福岡市総合図 書館や福岡大学、九州大学など近郊の図書館へ所蔵情 報を調査して、利用の提案も行っています。

請求番号も判って本棚を何度も探して見つからないときは、どうしたらよいですか?

OPAC の所在一覧をプリントして、用紙の空白部分に「不明調査」、「在学番号」、「氏名」、「学生証のバーコードの数字」、「連絡方法(電話やメールアドレス)」を記載して受付に提出してください。迅速に職員が見つからなかった図書の調査後、連絡をしますが、書架open 形式(本学のように browsing で図書をみつける形式)の図書館では、利用者による直接書架への返却で不明図書(正しく所定の番号にないもの)が多発しています。このようなことを防止するには、利用者の高い利用モラルが必要なこともいうまでもありません。

コンピュータに「閉架」と表示されている図書は、 貸出が出来ないのですか?

「閉架」表示がある図書は、「貸出禁止」にあたる雑誌、辞典類、AV資料を除いて「閲覧」「貸出」ができます。利用される場合は、受付の「閉架資料閲覧票」で申し込んでください。職員が閉架書庫から持ってきますので、時間的に余裕を持ってカウンター付近でお待ちください。また、依頼した後授業へ向かうと

きは、閲覧職員に告げておいてください。「閉架資料 閲覧票」は、新聞の過日分や縮刷版を閲覧するときも 用います。

指定図書は、なぜ貸出が出来ないのですか?

指定図書は、講義担当の先生方が講義の参考となるよう指定されたもので、現物見本のようなものです。このため、館内は自由に利用できますが、貸出はできません。貸出可能な同じ本(複本)を OPAC の検索や「見本」と同じラベル番号の書架を点検してみましょう。利用者が多くなると利用できないことが起こりますので、計画的な利用プランも要求されます。

国際機関資料室の資料は貸出ができますか?

国連寄託図書館、EU 資料センター、OECD 協力 資料館の資料は通常貸出の他に5冊まで借りることが できます。貸出期間は1ヵ月です。ただし、国際協力 プラザコーナーの資料は貸出できません。

なお、年鑑や参考資料、雑誌類など一部貸出できな い資料もあります。

持ち込みのビデオなどの AV 資料は、図書館で利用できますか?

利用できます。カウンター備付の、「AV コーナー利用票」で申し込みください。受付は20時までとなっています。内容は厳しく制限しませんが、不適切なものは利用できないこともあります。

1階のコーナーには、VT、LV(LD)、CD、T(カセットテープ)が利用できる1 人用、2 人用のブースが10台設置されています。3 人以上での利用や、 β のビデオも利用できますので、カウンターへご相談ください。

図書館は多数の AV 資料を所蔵していますので、 ご利用ください。

昔の新聞はありませんか?

図書館には日本の新聞を始め、外国の新聞も所蔵しています。製本、縮刷版、マイクロフィルム等で保存



していますので、OPAC 検索や雑誌目録などで所蔵の状態を調べて「閉架資料閲覧票」に新聞名、年月日を記入して申し込んでください。

研究課題に関する文献を探すにはどうしたらよいですか?

図書、雑誌、新聞などの記事を探すときは、OPAC 検索や、各種ツールを活用してみましょう。

文献に関係あるキーワード (書名に関するもの、著

者名など)を OPAC 端末へ入力すると関連図書、雑誌などの検索ができます。また、図書館1階の第1参考図書コーナーの参考図書を用いれば、資料の絞り込みも可能です。論文、新聞記事、判例などの情報に関するツールも備えています。SAINS ルームのパソコンを利用して、雑誌記事索引 CD-ROM の検索や、図書館ホームページのリンク集より情報収集することも可能です。資料の用い方などの質問はカウンターで受け付けています。

Information

◎卒業論文貸出について

卒業論文作成に必要な図書は、一般貸出5冊の 他に貸出ができます。

貸出のとき「卒論用」と申し出て下さい。

貸出期間 30日 (更新不可)

貸出冊数 5冊

◎休暇期間の長期貸出

春季休暇貸出

受付開始1月19日金 → 返却期限4月3日伙 (卒業年次生の返却期限は2月末日です。)

◎休館日

11月18日生 大学祭期間

12月25日(月) キリスト降誕祭

12月27日(水)正午~1月5日(金) 年末年始休暇 2月6日(火)~10日(土) 大学入試期間

◎「図書館利用チューター制度」の実施について

学部に相応しい利用指導の充実のための「図書館利用チューター制度」を試行的に本年6月から約1ヵ月間、チューター(補助学生)を導入して、商・法学部の1年次の基礎演習14クラスに実施しました。

○九州地区大学図書館協議会加盟館、または福岡県・佐賀県大学図書館協議会加盟館における来館利用について

九州地区大学図書館協議会加盟館、または福岡県・佐賀県大学図書館協議会加盟館では、学生証等を呈示することにより利用ができるようになりました。

ただし、利用できない図書館や一部制限を設け

ている図書館もあるので、「西南学院大学図書館」 のホームページで確認するか、事前に利用先の図 書館に連絡をしてください。

(http://www.seinan-gu.ac.jp/library/index.html) 《図書館委員の交替》

 $(2000.7.1 \sim 2001.6.30)$

新任者 図書館委員 前任者 (神 学) 助教授 須藤伊知郎 教授 寺園 喜基 (英 文) 助教授 髙橋 和子 教授 久屋 孝夫 (フランス語) 教授 太田 和男 教授 太田 和男 (商 学) 助教授 小川 浩昭 助教授 王 忠毅 (経済学) 講師 小出 秀雄 教授 相模 裕一 (法 学) 助教授 奥 博司 助教授 奥 博司 (児童教育) 教授 生野 金三 教授 生野 金三 (国際文化) 教授 岩尾龍太郎 教授 岩尾龍太郎

《図書館委員会》

7月5日(水)

報告 ①図書館利用チューター制度の実施結果に ついて

議題 ①2000(平成12)年度図書館点検評価委員の 委嘱について

編集後記

今号は、読書の秋にちなんで、先生方に「これは、在学中に読んでおきたい本」ということで、執筆していただきました。学生のみなさんも大いに参考にされ、「良書ノ全身ニ充満シタル丈夫」になってください。 (Y. M)

表紙は、2000 (平成12)年度 OPEN CAMPUS における図書館見学風景。

西南学院大学図書館報編集 館報編集委員会 発行 西南学院大学図書館 No.149 2000 (平成12) 年10月24日 発行

〒814-8511 福岡市早良区西新 6 丁目 2 番92号 TEL (092) 823-3426